

宮城県高等学校総合体育大会剣道大会ガイドライン

宮城県高体連剣道専門部

宮城県高等学校総合体育大会剣道大会を開催するにあたり、宮城県教育庁スポーツ健康課から発表されている「新型コロナウイルス感染症に対応した大会開催に関する留意事項について」、全日本剣道連盟と宮城県剣道連盟から発表されている「対人稽古再開に向けた感染拡大防止ガイドライン」、全日本剣道連盟から発表されている「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」を参考とし、慎重に協議し、このガイドラインを制定致しました。

なお、本ガイドラインと試合審判規則等とが抵触する場合、当面は本ガイドラインの規定を優先します。

ガイドライン

1 大会参加に当たって～参加生徒心得および顧問の先生方の指導事項について～

(1) 生徒心得

- 以下に該当する者は出場（関係者は参加）できない。
 - (ア) 基礎疾患のある者
 - ・ 基礎疾患のある者とは、「糖尿病、心不全、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方など」をいう。
 - ・ これらの者が理由あって出場（参加）する場合は、主治医の承認を得るものとする。
 - (イ) 発熱のある者（37.5 度以上ある者）。
 - (ウ) 咳・咽頭痛など風邪の様な症状がある者、その他体調がよくない者。
 - (エ) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - (オ) 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
 - (カ) 県の方針に準じ、感染に関わるその他の事情により出場が認められない場合がある。
- 大会参加に当たっては、全ての選手・マネージャー・補助役員が2週間前から健康状態を確認し、保護者の署名、捺印をした「大会参加に関する確認書」を必ず顧問の先生に提出すること。
- 選手並びに関係者は、フィジカル・ディスタンス（人と人の距離、最低でも1メートル、できれば2メートル）を常に保つようにする。
- 全ての選手・マネージャー・補助役員を問わず、マスク（通常のマスク及び選手は面マスクも）とタオルをそれぞれ全員が持参し、会場内ではできる限りマスクを着用し、手洗い等の際は自分のタオルを用いること。
- こまめな手洗い（石けんにより30秒程度）、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- トイレの蓋は、できる限り閉めて汚物を流すこと。
- できる限り他の参加者や大会関係者との距離を確保すること。
- 更衣室では他の参加者と密になることを避けること。

- 水分補給の際にコップの使い回しは避けること。
- ゴミは、各自で持ち帰ること。ゴミ袋は大会本部で用意します。
- 応援は拍手のみとする。
- 観客席の使用については、一席以上空けて使用すること。
- 観戦者は、会場内で常時マスクを着用すること。
- 選手、関係者並びに許可された人以外（例えば、付き添いや見学者）は試合会場へ入場できない。
- 選手並びに関係者は、本ガイドラインを遵守し、安全な大会の運営に協力する。
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、宮城県高体連剣道専門部に対して、速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。感染者対策として「大会参加に関する確認書」と「健康観察報告書」は大会終了後、個人情報の取り扱いを十分に注意して、宮城県高体連剣道専門部で1ヶ月保管する。

(2) 顧問の先生方をお願いしたい指導事項

- 各校顧問は、「大会参加に関する確認書」・「健康観察報告書」（選手の大会当日の検温と健康状態）を、受付にご提出ください。持参しなかった場合は、原則として入場できません。
- 入場する人はすべて体温測定を受けください。非接触型体温計により、選手並びに関係者の体温測定を行い、37.5度以上ある人は、入場できません。
- 上記「生徒心得」をよくお読み頂き、生徒に実践するようご指導ください。
- 「握手」「ハイタッチ」「肩を組む」など、競技以外の身体接触を控え、ミーティング等も短い時間で行い、密にならないようご指導ください。
- 選手並びに関係者は、自宅と大会会場との往復の際にはマスクを着用し感染予防に努めてください。
- 着替えの際は、大会会場内での密集を避けるため、できるだけ着替えを行った上、入場させてください。
- 選手は、試合会場では、試合時（面マスク使用）を除いて、常にマスクを着用させてください。審判員及び役員はマスク、係員は、マスク及びフェイスシールドを着用してください。

2 試合について

(1) 試合者について

- 試合規定は、全日本剣道連盟剣道試合・審判規則並びに細則、全国高体連剣道専門部申し合わせ事項、宮城県高体連剣道専門部申し合わせ事項、大会要項により実施する。
- 全日本剣道連盟のガイドラインに基づき、選手は必ずマスクとシールドを着用する。マスクは口鼻を隠し正しく着用する。シールドの関しては、口を覆うものは必須とし、目を覆うものは自由とする。

※「面マスク」は呼吸障害を起こさないよう、通気性のあるものが望ましい。(医療用マスクの使用は避ける)

※「面マスク」着用の際、鼻を出して使用することはできない。

※「面マスク」は個人に合うマスクを「面マスク」として使うことを可能とする。なお、「面マスク」は口の上に接していなければならない。面の内側に装着するものは「面マスク」とはしない。

- 全剣連ガイドラインに従い、試合者は、鏝競り合いを避ける。やむを得ず鏝競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか引き技を出し、掛け声は出さない（引き技時の発声は認める）。
- 試合中に面マスクによる呼吸困難や体調に異変を感じた場合は、すぐに審判員に対し中止要請をして休憩等の対応をとる。状況によっては、大会本部から試合中断（棄権）の判断を下す場合がある。
- 竹刀検量は感染対策を講じた上で実施する。
- 竹刀検量に出せる竹刀の本数は1選手3本とし、検量場への入場は各校3人までとする。
- 待機時は間隔をとり、検査→退場のルートを一方通行とする。

（2）審判員について

- 審判の服装は全日本剣道連盟審判員服装とし、マスク着用を義務づける。
- 試合規定は、全日本剣道連盟剣道試合・審判規則並びに細則，全国高体連剣道専門部申し合わせ事項，宮城県高体連剣道専門部申し合わせ事項，大会要項を参照する。
- 審判員は試合者同士が「鏝競り合い」や「身体接触」を解消しない場合は、ただちに「分かれ」を宣告する。
- 審判員は、試合者の中止要請がない場合でも、様子がおかしいときには「やめ」をかけて体調を確認し、休憩要請があれば適時休憩をさせる。
- 審判員の試合場への入退場の際は、1メートル以上の間隔を空けて行ない、副審は試合開始線の外側を通り定位置まで進む。
- 合議は1メートル以上の間隔を空けて行う。
- 試合終了後に当該試合の反省を行う場合は、1メートル以上の間隔を空ける。
- 極力各自の審判旗を持参して使用する（ない場合は本部で準備する）。
- 各試合会場の審判員控席にアルコール除菌液を設置し、手指消毒を行う。

3 大会運営について（大会運営ガイドライン）

（1）手洗い場及びトイレ

- 手洗い場及びトイレについては、ポンプ型の手洗い石鹸を設置する。
- 手洗い励行を呼びかけ、「30秒以上手洗いをする」等の張り紙を掲示する。
- ドアノブ・水洗トイレのレバー等についてはこまめに消毒を行う。

（2）更衣室・待機スペース・練習会場

- 換気扇を常に回す，換気用の小窓を開ける等の換気を常に行う。
- ドアノブ等についてはこまめに消毒を行う。

- 更衣室の人数制限等，張り紙をして対処する。

(3) 大会会場の管理・運営

- 三密を避けるため，来賓は呼ばず，審判長も高体連の先生方で担当する。なお，審判監督会議も書面で済ませる。
- アリーナの窓は常時開放し，換気を常に行う。
- コップ等の使い回しやペットボトルの回し飲みの禁止など周知徹底する。
- 受付窓口には，手指消毒剤を設置する。
- 受付では「大会参加に関する確認書」・「健康観察報告書」を回収する。体調不良者の入場を禁止する。並び方も，密にならないよう留意する。
- ゴミは持ち帰りとするため，受付時にゴミ袋を配布する。
- 体調不良者等が出た場合に対応するため，大会期間中は常時看護師の配属を要請し，休憩用の部屋も用意する。
- 大会会場へ入場するすべての者は，入り口で検温をしてもらい手指消毒を行う。
- 報道関係者，写真業者，外部指導者（指導員），参加校の写真部員の入場は認める。ただし，生徒心得の遵守を呼びかける。
- このガイドラインは，宮城県や全剣連・宮剣連の通知および今後の知見の集積や感染状況等により，逐次見直すことがあることをご了解ください。